

国際環境工学部における基盤教育科目の到達目標

◎ 関連する学校授業科目の能力との関連性 ◎ 強く関連 ○ 関連 △ やや関連

科目区分	授業科目	知識	技能	態度・ 価値観・ 行動力	到達目標	知識を活用できる 【能力】	次代を切り開く【思考・判断・表現力】	積極的な社会活動を促進する【コミュニケーション力】	社会で生きる【自律的行動力】
人文・ 社会 (16)	経済学入門Ⅰ	◎	○	○	経済学の基礎的知識を身に付ける。	経済学理論の枠組みから関係する分野への理解を深めることができる。	自身が今後関わることとなる経済活動を想定し、それについて論理的に考察できる。	-	-
	心と体の健康学	○	○	◎	-	身体とメンタルの管理方法を実践できる。	-	身体とメンタルの状態について、他者とやりとりしながら把握し、協力して改善することができる。	年齢の進行に応じた身体とメンタルのケアに必要な情報を自ら得ることができる。
	考え方の基礎	○	◎	○	-	大学生に求められる「考え方」とはどのようなものかを身に付ける。	読解力と論理的思考力の重要性を学び、自らの考えを適切に表出する体験を増やす。	協働学習を通じ、参加者相互に課題を共有し問題解決を目指すためのコツを身に付ける。	-
	キャリア・プランニング	○	◎	○	キャリア設計に必要な知識を身に付ける。	-	キャリア設計を必要に応じて再編することができる。	-	キャリア設計において、必要な相談を他者と交わしつつ、自ら考えていくことができる。
	経済学入門Ⅱ	◎	○	△	日本と世界の経済情勢に関する知識を身に付ける。	-	経済現象について情報を整理し、自身の意見を表明できる。	-	今後の経済情勢を予測し、自身の将来設計に役立てることができる。
	経営入門	◎	○	○	企業の役割や仕組みについて、説明することができる。	-	社会における企業の役割に関心をもち、説明することができる。	-	-
	現代人のこころ	◎	○	○	-	-	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	心理学的観点より社会を理解し、他者との協働に役立てることができる。	心理学的な理論と知見を活用し、自身の行動を深く考察することができる。
	倫理入門	◎	○	○	-	-	複雑な状況下で問題を定義し、分析することができる。	社会の共通ルールについて考え、それをもとに行動することができる。	倫理問題を他人事ではなく、自分の立場で考え、対応することができる。
	日本語の表現技術	◎	○	○	-	大学生活に必要なアカデミック・ジャーナリズムを身に付け、レポート執筆のために適切な表現や文体を選択することができる。	日本語の表現・文体の多様性と機能を知り、レポートに必要な表現技術を自ら判断することができる。	書き言葉による情報共有を図ることができる。	-
	アジア経済	◎	○	○	アジア地域の社会、経済について重要な知識を身に付ける。	関連する統計数値の分析を行うことができる。	今後のアジア地域、世界経済情勢を予測し、自身の意見を表明できる。	-	-
	とぼとちジェンダー	○	◎	○	-	-	ジェンダーを表現することばを認識し、責任ある社会人としてふさわしい言動がいかなるものかについて慎重に考えることができる。	ジェンダーバイアスに支配されない正しい知識と精神力をもって、お互いを尊重しつつコミュニケーションをとることができる。	ジェンダーを表現することばの存在を認識し、他者との共生のために必要な倫理観を自ら養っていくことができる。
	技術者としての倫理	○	◎	○	技術者としての倫理的行動の方法とその背景となる理論的根拠を説明することができる。	-	技術的な対応とそれを越えた課題を指摘し、倫理的な解決策を検討することができる。	-	技術者の社会的な影響力を理解し、倫理的な行動を設計することができる。
	スタートアップ研究	○	○	◎	事業構想の理論的枠組みを身に付けている。	-	社会的課題を把握し、事業を通じた創造的な解決策を提案することができる。	-	個人とグループで課題に取り組み解決策を生み出すことができる。
	企業研究	○	○	◎	企業活動を把握するための情報収集と整理の方法を身に付ける。	-	-	調査結果を整理、発表し、質疑応答することができる。	調査結果に基づいて、自身のキャリア設計を実行することができる。
	社会学習インターンシップ	○	○	◎	-	-	インターンシップ体験で得られたことを振り返り、自身の言葉で表現できる。	相互にインターンシップ体験を発表し、質疑応答することができる。	自身でキャリア設計を行い、就業体験先を選び取ることができる。
	人文社会ゼミ	○	◎	○	-	-	関心のある題材に対して思考を深め、判断し、自身の言葉で表現できる。	研究発表を通じて自分で選択したテーマを明確に伝えることができる。	論理的な思考力を養い、社会活動に活かす土台作りができる。
国際経済研究	◎	○	○	世界の経済情勢、国際関係についての知識を身に付ける。	-	グローバル化の更なる進展と世界情勢の変化を理解し、行動することができる。	-	-	
知的所有権	◎	◎	○	知的所有権についての基本的知識を身に付ける。	知財情報データベースを検索し、必要な情報を引き出すことができる。	知財情報に基づいて、取り扱うアイデアや技術を定義し、表現できる。	-	-	
データサイエンス入門	○	◎	○	データを適切に分析する技能を身に付けている。	第4次産業革命やSociety 5.0、データ駆動型社会を正しく理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	-	-	-	
社会で活かすAI技術	○	◎	△	社会へのAI技術の応用を理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	AI技術の表裏を正しく理解するために必要な技能を身に付けている。	AI技術の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	-	
社会を動かすデータ活用	○	◎	△	社会へのデータサイエンスの応用を理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	データサイエンスの実状を正しく理解するために必要な技能を身に付けている。	データサイエンスの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に付けている。	-	-	
キャリア・デザイン	○	○	◎	-	-	-	-	社会と接続し、組織や社会の活動を促進する力を身に付けている。	
地域のにぎわいづくり	◎	○	○	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や産業を理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	-	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。	-	地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。	
未来を創る環境技術	◎	○	○	環境問題や環境技術を理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	-	-	-	-	
地域防災への招待	◎	○	○	地域防災を理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	-	地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。	-	地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。	
自然史へのぞきこみ	◎	○	○	自然史を理解するための基礎となる知識を総合的に身に付けている。	-	-	-	自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。	
環境問題特別講義	◎	○	○	環境問題およびSDGs(持続可能な開発目標)に関する幅広い知識と基礎的な研究アプローチを学ぶための手段を身に付けている。	-	-	-	-	
環境学入門	◎	○	○	地球環境に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身に付けている。	-	-	-	-	
環境問題事例研究	◎	○	○	社会問題を分野横断・文理融合により解決するための工学的なアプローチに関する事例や基礎的な知識を理解している。	限られた小規模なテーマについて、調査・研究活動の立案と実施を体験し、リスクマネジメント、データ収集・分析、フィールドワーク実施、プレゼンテーションを遂行するための技能を身に付けている。	-	調査・研究活動において、リスクマネジメントの基礎を理解し、チームで積極的な議論しながら、協働して研究テーマに取り組み姿勢を身に付けている。	-	
生化学	◎	○	○	生態系の中での生物と環境とのかかわりについて、幅広い視野から洞察し、幅広い知識を持っている。	-	様々な分野にわたる知識が、人間生活の改善にどのようにかかわっているのかについて深く理解し、これにかかわる自己の意見を表明できる。	-	-	
環境都市論	◎	○	○	都市の環境問題の発生と対策・政策の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。	-	都市環境問題に対して、どのように生産・消費等の人間活動が原因や解決に関わっているのかを理解する。	-	-	
外国語教育科目(8)	英語Ⅰ	◎	○	○	-	英語のバラグラフ構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。	文章の基本構造を理解し、自分の考えを発信することができる。	-	-
	英語Ⅱ	◎	○	○	-	身近な話題について英語で聞いて理解する力及び伝える力を身に付ける。	英語で論理的に表現することができる。	-	-
	実践英語	◎	○	○	-	基本的な語彙、文法を身に付け、英語の読む力、聞く力を向上させる。	英語を用いて基本的なコミュニケーションを取ることができる。	-	-
	英語Ⅲ	◎	○	○	-	英語のバラグラフ構造を理解し、内容を整理して読むことができる。	根拠を示して自分の意見を表現することができる。	-	-
	英語Ⅳ	◎	○	○	-	英語のプレゼンテーションで使用される基礎的な表現と構文を身に付ける。	様々な情報やデータを英語で分かりやすく伝えることができる。	-	-
	英語Ⅴ	◎	○	○	-	英語の論理構造を理解して英文を読み、内容をまとめることができる。	適切な基本構造を用いて、自分の考えや必要な情報を論理的に表現することができる。	-	-
	英語Ⅵ	◎	○	○	-	様々な分野に触れながら、大学生としてふさわしい関わり・話す力を身に付ける。	様々な情報やデータを英語で活用し、自分の意見を論理的に述べることができる。	-	-
英語Ⅶ	◎	○	○	-	興味ある分野について、英語で書かれた文書を読み、その特徴を分析することができる。	適切なフォーマットを用いて、自分の考えや必要な情報を発信することができる。	-	-	
英語教育科目(5)	College English I	◎	○	○	-	大学の授業で求められる英語の基礎力を身に付ける。	-	-	-
	College English II	◎	○	○	-	英語の基本的な理解力及び表現力を身に付ける。	-	-	-
	総合日本語A	◎	○	○	-	大学で教育を受けていくために必要な日本語の熟達度を高めることができる。	大学生活の様々な場面で求められる語彙、表現、文体を、自ら判断して使い分けすることができる。	大学の授業に参加し、日本語で理解し、教員や受講生と意思の疎通を図る。	-
	総合日本語B	◎	○	○	-	上級レベルの日本語学習者にとっても複雑と思われる課題に対処する実践的日本語能力を身に付ける。	レポートやプレゼンテーションの準備のために必要な情報収集活動の段階から、日本語を駆使して問題解決を図ることができる。	不特定多数の聴衆・読者を対象に、日本語で自らの意見を正確に伝えることができる。	-
	技術日本語基礎	△	◎	○	-	日常生活では使用頻度が低いものでも、環境工学に関わる課題を扱うに必要な語彙や表現を理解することができる。	環境工学に関わりのある日本語資料(視覚的資料を含む)を理解し、それに関連する短いレポートを執筆するための日本語を身に付ける。	専門的な単語や表現にも抵抗感を感せず、環境工学に関する話題を理解し、レポートを通して意見を述べることができる。	-
ビジネス日本語	◎	○	○	-	自己を正しく分析した上で自らの能力を説明し、就職活動の準備を行うための日本語の理解力、発信力を身に付ける。	-	就職活動中、及び、社会人となった後に求められる日本語コミュニケーション能力を身に付ける。	日本語熟達度の向上を基盤に、就職活動中、あるいは、ビジネス場面で直面する課題を自ら解決していく姿勢を身に付ける。	
日本事情(1)	◎	○	○	日本の大学生活を送る上で不可欠となるマナー、法律、一般常識を総合的に理解している。	-	日本人・日本社会の実情を的確に分析し、文化的差異を乗り越えて円滑に大学生活を送ることができる。	日本の大学生活や日本人との協働をそれほど抵抗なく行うことができる。	-	